

授業科目名	社会調査演習 1	担当教員 西崎 伸子	
必修の区分	選択		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 1 クオーター		
講義内容	この授業では、文化人類学や社会学で用いられるフィールドワークに関する基本的な理論と方法を修得することを目的とする。問題設定、調査の計画と準備、実施(資料・データ収集)、分析、調査倫理などの調査の一連の流れを説明し、おもに質的調査(参与観察、インタビュー)と文献調査の基本的技法の修得を目指す。		
到達目標	社会調査手法に関する基礎的な考え方・知識を理解することができる調査計画を立てることができる		
授業計画	1. ガイダンス：授業の目的・進め方の確認 2. フィールドワークの方法：質的調査と量的調査 3. 質的調査の 3 つの方法 4. フィールドワークをおこなうための手順（インタビュー） 5. フィールドワークをおこなうための手順（観察） 6. フィールドワークをおこなうための手順（生活史） 7. 調査の倫理 8. テーマの見つけ方（1） 9. テーマの見つけ方（2） 10. 調査計画を立てる（1） 11. 調査計画を立てる（2） 12. 調査計画に関する面談（インタビュー）		
事前・事後学習	・毎回の授業のテーマに関連する書籍などの情報を収集し、目を通しておくこと ・各授業の実施後、必要に応じて課題を与えるのでとりくむこと		
テキスト	テキストは用いず、資料を配布（配信）する。		
参考文献	菅原和孝『フィールドワークへの挑戦—“実践” 人類学入門』世界思想社, 2006 年 佐藤郁哉『フィールドワークの技法—問い合わせ育てる、仮説をきたえる』新曜社, 2002 年 好井裕明『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス』光文社新書, 2006 年 岸政彦、石岡丈昇、丸山里美『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』有斐閣, 2016 年		

	清水展・小國和子編著『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店、2021年
成績評価の基準	課題の提出（5回程度）及び最終面談で評価する。 ★授業に出席していることが成績評価の前提条件になる（3回以上欠席した場合は自動的にD評価となる）
履修上の注意 履修要件	履修学生は、社会学、社会調査演習Ⅱをあわせて履修することが望ましい
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員を超過した場合は抽選する。